

公益社団法人 日本技術士会
千葉県支部 2020 年度
活動報告書

2019 年度活動報告

(2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日)

2020 年度活動計画

(2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日)

2020 年 7 月

公益社団法人 日本技術士会 千葉県支部

日本技術士会 千葉県支部

2020 年度 活動報告書

目次

I. 支部長挨拶

II. 2019 年度活動報告・2020 年度活動計画

1. 千葉県支部活動報告・活動方針

2. 委員会・チーム活動報告・活動計画

①総務委員会

②企画委員会

③広報委員会

④活動推進委員会

⑤産学官連携チーム

⑥企業支援チーム

⑦技術相談チーム

⑧防災支援チーム

⑨科学教育支援チーム

⑩技術者教育支援チーム

III. 会計報告・活動組織図

1. 2019 年度 収支計算書 (決算)

2. 2019 年度 監査報告書

3. 2020 年度 予算

4. 2020 年度 活動組織図

基本理念

千葉県支部は、多様な技術士の技術力とチーム力で、産・学・官との交流・連携を強めて、地域社会の発展に貢献する。

行動指針

1. 技術士：倫理の啓発に努め、継続研鑽(CPD)により技術士の資質向上に努める。
2. 産・学・官との交流を深め、連携を積極的に行い、技術士の活用を促進する。
3. 企業支援、科学技術・理科教育支援、コミュニティとの協働を活発化する。
4. 技術士の知名度向上および会員拡大を図る。

I. 支部長挨拶

収まらない COVID-19 のため 2020 年度年次大会はメール会議にて開催の運びとなりました。本報告をご高覧いただき会員各位にお礼申し上げます。

千葉県支部は、平成 24 年に設置されてから 8 年目を迎えました。会員の皆様、賛助会員の皆様並びに役員・委員各位にご支援を賜り、活動を進めることが出来たことを深謝します。平成 2019 年度の活動報告と、2020 年度に向けた活動計画についてご説明し、ご意見を賜りたく存じます。

昨年、支部長として感じましたことを、三点述べます。

まずは、今も続いています COVID-19 への対応です。COVID-19 により CPD をはじめとして千葉県支部活動の多くが中止・延期となりました。会員の皆様の期待に沿えず、申し訳ありません。千葉県支部としては遠隔会議システムの活用など他県支部に先んじた対応にチャレンジしています。一足飛びに完璧な対応とはなりません、徐々に失敗を糧として COVID-19 後にもつながる技術士会活動の姿を作っていきます。

二つ目は事業計画にない活動の実施です。昨年、千葉県支部は日本技術士会の事業計画にない活動を行い、関係各位にご迷惑をお掛けしました。会員の皆様におかれましては日本技術士会の本年度事業計画に目を通して、会の活動と齟齬がなきようご注意くださいようお願いいたします。なお、どのような活動であったかについては千葉県支部の代表メール chiba@engineer.or.jp 宛にお問い合わせください。

三つ目は活動の広がりです。個々の項目は各委員会、チームの発表をご覧ください。昨年度より産学官との活動が一回り広がっています。残念なのは COVID-19 のために行事中止となり、折角、蒔いた種が収穫にまで至らない活動もあったことです。しかし蒔いた種は将来必ず実ると確信しています。

最後に、支部財務状況は危機的とお話ししてまいりましたが、昨年度より本部から拠点整備費として 2019 年度より配賦が 40 万円増額され大幅に改善しました。支部活動に伴う交通費などの経費も全額支払えるようになりました。今までの皆様のご協力に感謝します。

2020 年度は、COVID-19 が猖獗していても、終息しても会員の皆様に技術士会サービスを提供していきたいと考えています。このサービスには会員の皆様が支部から受動的に受けるサービスに加え、皆様が主体的に活動するサービスも含んでいます。会員の皆様には更なるご協力とご支援をいただきたくお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員の皆様の益々のご健勝を祈念しまして、年次大会の挨拶といたします。

支部長 川畑 真一

Ⅱ . 2019年度活動報告・2020年度活動計画

1. 千葉県支部 活動報告・活動計画

2019年度千葉県支部の活動報告



2019年度千葉県支部の活動報告(1/4)

昨年度は2019年度年次大会の活動計画にのっとり、各委員会並びに支援チームにおいて活動を進めたがCOVID-19の影響で縮小のやむなきに至った。2020年4月末会員数は正会員806名、準会員180名、計986名で、昨年3月末の正会員817名、準会員201名、計1018名にくらべて30名の大幅減である。

支部会議については、役員会を10回(内1回はメール会議)開催し、委員会、支援チーム会議を53回開催した。

計画に対する活動の概要は次の通り

(1)地域産業振興への支援

(a)地域産業振興支援として、産・学・官との協働・連携を進める。

→例年通り実施を目指すも一部COVID-19で縮小

(b)技術士による企業向け技術相談を継続実施する。

→例年通り実施を目指すもCOVID-19で一部縮小

(c)総武沿線のみならず東葛・外房地域等全県下への展開に努める。→努力不足で叶わず

2019年度千葉県支部の活動報告 (2/4)

(d)支部として会費を払っている千葉産業人クラブ、千葉商工会議所および東葛テクノプラザの活用

→計画通り実施を目指すもCOVID-19で一部縮小。

(2) 大学等教育機関との連携

(a) JABEE関連について学生に向けた技術士の広報活動を進める。→努力不足で叶わず

(b) 大学等研究機関と交流し、講師派遣や大学からの企業連携依頼等の人的交流に努める。→数件の成果あり

(c) 技術者にとっての憧れの資格として技術士の魅力の発信。

(3) 県下の技術士会との交流

(a) 千葉県庁技術士会、船橋市役所技術士会、千葉工業大学技術士会等との合同勉強会を開催する。→計画通り実施

2019年度千葉県支部の活動報告 (3/4)

(4) CPD(継続的研鑽)

(a)技術者倫理の啓発に努め、技術士の資質向上のため講演会や見学会などの研修会を開催し、会員の他、企業関係者及び市民の参加を増やす。→計画通り実施を目指すもCOVID-19で一部縮小

(5) 会員の活動機会の拡充

(a)支援チームや活動グループによる会員の活動参加機会拡充・拡大に努める。→努力不足

(b)企業内技術士の活動の場を拡大する。→努力不足

(6) 収入増および支出削減に配慮し、支部財政の健全化努力

(a)県支部会員の拡大をあらゆる場面で図る。

特に、新入会員が千葉県支部所属を選べるよう働きかける。
→県支部入会案内を合格案内に同封依頼するも実施は不明
なお、2019年度より本部より支部拠点整備費が40万円支給
赤字財政運営は一息つくことができた。

2019年度千葉県支部の活動報告 (4/4)

(7) 地方自治体との連携

(a) 千葉市との「防災支援協定」に基づく体制整備と支援仕組み作りの推進。→計画通り推進を目指すも一部COVID-19で縮小。

(b) 「災害対策士業等連絡協議会」を通じた活動展開。

→「千葉県災害対策士業ネットワーク」として活動開始

(c) 自治体が催す市民活動フェア等に参加し、技術士会が行う活動をPRする。(例えば、科学技術フェアでのモノづくり体験や防災・減災に関する活動等)

→計画通り実施を目指すも一部、台風とCOVID-19で縮小。

(8) その他

(a) 日本技術士会の事業計画にない事項を実施。

関係各位に迷惑を掛けた。再発防止に努める。

本件について詳細は千葉県支部chiba@engineer.or.jp宛てお問い合わせください。

2020年度千葉県支部の活動計画



2020年度千葉県支部の活動計画 (1/4)

2020年度は特別事項としてCOVID-19を考慮した活動とする。また、県支部として事業計画範囲外の活動を行わぬよう、事業計画の周知を目指す。また、COVID-19の終息、若しくは影響低下を睨みながら例年の活動を目指す。

1. 特別事項

- (1) COVID-19対応を好機として遠隔講演, 会議への取り組み
- (2) 日本技術士会事業計画の周知

2020年度千葉県支部の活動計画 (2/4)

2. 例年の活動

(1) 地域産業振興への支援

(a) 地域産業振興支援として、産・学・官との協働・連携を進める。

(b) 技術士による企業向け技術相談を継続実施する。

(c) 遠隔講演の活用などにより総武沿線のみならず東葛・外房地域等全県下への展開に努める。

(d) 支部として会費を払っている千葉産業人クラブ，千葉商工会議所および東葛テクノプラザの活用

(e) 千葉県災害復興支援士業ネットワークとの連携と活用

(2) 大学等教育機関との連携

(a) JABEE関連について学生に向けた技術士の広報活動を進める。

(b) 大学等研究機関と交流し、講師派遣や大学からの企業連携依頼等の人的交流に努める。

(c) 技術者にとっての憧れの資格として技術士の魅力の発信。

2020年度千葉県支部の活動計画 (3/4)

(3) 県下の技術士会との交流

(a) 千葉県庁技術士会、船橋市役所技術士会、千葉工業大学技術士会等との合同勉強会を開催する。

(4) CPD(継続的研鑽)

(a) 技術者倫理の啓発に努め、技術士の資質向上のため講演会や見学会などの研修会を開催し、会員その他、企業関係者及び市民の参加を増やす。遠隔講演の活用を検討する。

(5) 会員の活動機会の拡充

(a) 支援チームや活動グループによる会員の活動参加機会拡充・拡大に努める。遠隔会議の活用を検討する。

(b) 企業内技術士の活動の場を拡大する。

2020年度千葉県支部の活動計画 (4/4)

(6) 地方自治体との連携

(a) 千葉市との「防災支援協定」に基づく体制整備と支援仕組み作りの推進。

(b) 自治体が催す市民活動フェア等に参加し、技術士会が行う活動をPRする。(例えば、科学技術フェアでのモノづくり体験や防災・減災に関する活動等)

2. 委員会・チーム 活動報告・活動計画

総務委員会(2019年度報告)

委員会を2回開催し、以下の項目につき協議・確認・実施した。

1. 事務所管理は当番制で行っている。当番に協力いただいている幹事並びに会員は21名である。
2. 年次大会は、7月15日(月)「ホテルプラザ菜の花」において支部会員50名の出席を得て開催した。
3. 本部との連携は、報告・連絡・協議などを適切に行っている。
4. 財務・会計は、適切に出納管理を行い、本部へ2ヶ月毎に報告している。本部での集計結果を支部役員会で適時報告し、透明性を確保している。なお、会計収支については、2年連続で黒字となった。

総務委員会(2019年度報告)

5. 規則や細則類の整備に伴う支部規定等について見直し、整備を図った。
6. 支部役員会の開催案内通知、役員会審議資料の準備、役員会議事録の整理を行った。
7. CPD等他の委員会並びに活動推進各チームとの連携を図った。
8. 会員数は986(正会員806、準会員180、2020年4月末)、協賛団体数は4(2020年4月末)といずれも減少した。

総務委員会(2020年度計画)

(1) 事務局整備

- ・事務所は、会員による当番制によって維持・管理する。
- ・年次大会及びCPD等委員会活動の支援を行う。
- ・本部との報告・連絡・協議を行う。

(2) 財務・会計

- ・収入の確保を確実にする。
- ・予算の管理と適切な出納を行う。

(3) 会員、協賛団体

- ・会員及び協賛団体の拡大に努める。

(4) 会規、会議、名簿整備

- ・規則類の整備を進める。
- ・支部役員会等会議の議事録を整備する。

総務委員会(2020年度計画)

- (5) 総務委員会の体制の見直し・増強・若返り
- (6) 規則・手引き類の見直し
 - 事務所利用に関する規則
 - その他全般的な見直し
- (7) 協賛団体の特典の見直し
 - HP・会報で紹介、講演会・見学会への招待、月刊「技術士」の送付。
- (8) 財政状況の監視、健全化策の見直し

協賛団体

(敬称略)

株式会社 ちばとち

有限会社 ケイエムアイエスオー

一般財団法人 千葉県環境財団

特定非営利活動法人 建設技術監査センター

.....

プラスチック・ジャパン 株式会社

(2020年3月末退会)

財政状況

- 2019年度決算額

当期収支差額	208,749円
--------	----------

前期繰越金額	261,029円
--------	----------

次期繰越金額	469,778円
--------	----------

- IPEJ本部より支部拠点整備費(40万円)の支給継続(2019年度から)

- CPD参加費の改定

(1000円→1500円、2017年7月から)

- 講演会・見学会開催費および対外活動促進費に対する補助の最大限の獲得

- 役員会交通費の支給を再開(2017年7月から支給停止、2019年8月から再開)

企画委員会(2019年度報告)

企画委員会は、2019年度中に**委員会を11回開催**し、協議を重ねながら以下を推進・実行した。

1. CPD研修会、講演会、見学会の実施。

- ① 2019年度は、別表に示す通り、**12回**の行事を実施した。
3月度については新型コロナウイルスの影響で、開催を延期した。
- ② 参加者累計総数は**418名**(会員**291**、会員外127名)であった。
- ③ 主なカテゴリーは、科学技術知識向上、合格者祝賀、CPD見学会、年次大会特別講演、防災、新春、合同勉強会、業務能力向上各講演会などであった。

2. 交流の拡大。

- ① 地域に密着した**会員相互及び産学官などとの交流活動**として、**県庁技術士会、船橋市役所技術士会、千葉工大技術士会**と合同勉強会を継続、各技術士会との交流を深めると共に、本部建設部会とも合同勉強会を開催した。
- ② 大学との交流では、千葉大学、首都大学東京の各教授に専門的なご講演を頂いた。特に、千葉大学との交流拡大を図った。
- ③ 大学や技術士以外にも、千葉産業振興センターや特定社会保険労務士、また各企業の専門家にも講演を頂き、知識の幅を広げる活動を行った。

- ④. **現場を知る活動**として、砕氷艦先代しらせの艦内設備や新京成電鉄株式会社の車両検修棟の見学を実施した。
- ⑤. 当委員会だけでなく広く他の活動チームと連携することにより、**外部組織との共催**の実現と新分野拡大を図った。

3. 企画委員会組織強化と活動の効率改善

昨年度から始めた、当委員会委員の各々が各イベントを担当する施策が定着し、負荷を分散させながら密度の濃い運営を進めた。

また、CPD及びその後の交流会会場として、支部事務所に隣接するホテルのパーティールームを活用した。

企画委員会(2020年度活動計画)

2020年度は以下を計画し、推進する。

1. 新手法を導入したCPD講演会の継続。

2020年の年初から拡大した新型コロナウイルスの終息が見通せず、第2波、第3波の蔓延も懸念されている。この影響で4月、5月のCPD行事は、延期・中止の止むなきに至った。然し、千葉県支部はwebを活用した手法を取り入れ、CPD講演を継続していく。

尚、本部方針により当面の間、見学会及び講演会後の交流会は見合わせる事とする。

web講演はその特性上秘匿性のある内容は公開できない等の制約もあるが、日本全国から講演に参加する事も出来る。支部としてもこれを活用し、新しい講演の形を模索していく。

2. 従来方針の継続。

新手法の導入と併せて、従来推進してきた以下も継続する。

- 1) 企画委員会の活動はCPD講演会を柱とする。
- 2) 会員への同報メール、ホームページを活用する。
- 3) 重点的なカテゴリーを決め、充実したCPDとする。
 - ① 定例的CPD、年次大会特別講演、新合格者祝賀講演会
 - ② 県内3技術士会との合同勉強会継続
 - ③ 防災チームと連携した防災講演会の実施
 - ④ 新規テーマによる会員の知見拡大を狙った講演会の実施
 - ⑤ 千葉大学、士業連絡会との連携強化
 - ⑥ 会員の業務に直結する知識強化に関する講演会の実施

3. 交流・連携の拡大と仕組みづくり及び組織強化

外部団体との共催、協賛の機会を増やすことを検討する。
交流の拡大と仕組みづくりを目指し、「交流から連携」へのキーワードのもとに大学・企業・自治体・その他の団体等について、関連委員会、チーム等と協力した仕組みづくりを継続する。

外部のイベントにも積極的に参加し、必要な情報収集及び課題を整理して、関連する委員会及びチームと協力連携して実現に向けての仕組みづくりを計画的に進めていく。

また、CPD開催時に県支部の在り方等、会員相互の意見交換を通じて親交を深めて行く。

以上

2019 年度 CPD 実績

(講師を含む、非会員は内数)

No.	実施日時	主テーマ 開催場所	研修内容	参加数
第71回	19/04/27(土) 14:00-17:30	業務能力向上講演会 (千葉商工会議所第2ホール)	「技術士が知っておきたい補助金の活用について」 ～補助金申請書のポイントについて教えます～千葉産業振興センター 伊藤 太一 氏	32 名 非会員(講師 1)
第72回	19/05/18(土) 14:00-17:00	合格者祝賀 (千葉商工会議所第2ホール)	合格者祝賀 技術士の活動事例紹介 活動全体:熊田成人氏 企業内技術士:岡部政美氏 独立技術士:徳永雅彦氏 社会貢献:志澤達司氏	35 名 合格者 12 講師 3
第73回	19/6/22(土) 14:00-17:30	専門知識向上講演会 (バンズカフェ2階パーティールーム)	「AI×量子×IoT が実現する社会」 長迫 勇樹 氏 ((株)クオンタムデータ代表取締役)	48 名 非会員 3
第74回	19/07/15(月) 15:40-16:40	年次大会 記念講演 (ホテル菜の花3階)	年次大会記念講演:「ゴムとJISと国際標準化」 濱田 裕 氏 (濱田技術士事務所 所長)	60 名 非会員 4
第75回	19/08/03(土) 14:00-17:00	専門知識向上講演会 (バンズカフェ2階パーティールーム)	「産業分野における高精度時刻同期の動向」 浅野篤哉氏 (ネットワークアディンソズ(株) 代表取締役社長)	19 名 非会員 2
第76回	19/09/7(土) 14:00-17:00	防災講演会 (市民会館3・4会議室)	「被災地の健康管理と支援体制づくりー発災から復旧・復興、平時へと繋ぐ持続的な取組」 千葉大 宮崎美砂子教授	40 名 非会員 5
第77回	19/10/25(金)	工場見学	・砕氷艦先代しらせとサッポロビール園 三枝 茂 氏 (WNI 気象文化創造センター 事務局長)	18 名 非会員 1
第78回	19/11/15(金)	県内4団体 合同勉強会 @千葉工大	・「水道システムについて」 首都大学東京 小泉 明 特任教授	82 名 非会員 60
第79回	19/11/20(水)	プラザ菜の花 3階会議室	・建設部会千葉県支部合同勉強会(講演会) 講演①:「千葉県建設行政の今後の施策」 渡邊浩太郎氏 (千葉県県土整備部 次長) 講演②:「構造物は100年の耐久性が当たり前」 石橋忠良氏 (JR 東日本コンサルタンツ(株)技術統括)	46 名 非会員 26
第80回	19/12/14(土) 14:00-17:00	専門知識向上講演会 (バンズカフェ2階パーティールーム)	「働き方改革と外国人雇用 ～今、中小企業が取り組むべき人材戦略とは～」 特定社会保険労務士 石倉雅恵氏	20 名 非会員 1
第81回	20/01/11(土) 14:00-17:00	新春講演会 (バンズカフェ2階パーティールーム)	「SDGs と地方創生」 千葉大 上野武教授、	43 名 非会員 3
第82回	20/02/15(土) 14:00-16:30	工場見学 (新京成電鉄車両基地 両基地検修棟)	新京成電鉄株式会社車両基地見学「車両の定期検査工程と内容について、そして新京成電鉄の歴史と鉄道連隊」 多田聡一氏(新京成電鉄株式会社取締役鉄道施設部長) 濱崎康弘氏(同 車両電気部車両課長)	57 名 非会員 6

広報委員会2019-2020

広報委員会体制

委員長 秋元英郎(幹)

委員会委員 徳永雅彦、竹田雅美(幹事)、
小林創、竹内利一、板津英輔、福崎昌宏、
櫛野勝

2019年度の活動結果

[活動目標]

- (1)千葉県支部HPの拡充
- (2)同報メールの有効活用
- (3)他チームの活動支援

2019年度の活動結果

[活動計画と結果]

(1) HP拡充

主に行事の告知、結果報告を発信
部分的に本部との見解の相違があった
会報を2回HPで発信

(2) 同報メール

主に行事の告知のメールを発信

(3) 他チームの活動支援

(未実施)

2020年度の活動計画

[活動目標]

- (1) 千葉県支部HPからの発信
- (2) 同報メールの発信
- (3) 他チームの活動支援

2020年度の活動計画

[活動計画]

(1) HP

CPD行事のタイムリーな告知
会報の発行2回

(2) 同報メール

CPD行事のタイムリーな告知

(3) 他チームの活動支援

技術相談チームの相談件数アップへの
対策検討

活動推進委員会(2019年度報告)

委員会の下には下記の6つのチームがあり各チームは独立して各々の活動を行っています。

- ①産学官連携チーム
- ②企業支援チーム
- ③技術相談チーム
- ④防災支援チーム
- ⑤科学教育支援チーム
- ⑥技術者教育支援チーム

詳細については、それぞれのチームから活動内容を報告します。

「情報収集」

産業人クラブ、ちばしんきんコラボ産学官などの会合に活動推進委員会関係チーム、支部長、他委員会と連携し、出席。情報収集に努めています。

(公社)日本技術士会の事業範囲について

「事業計画を逸脱した活動を行った。」

統括本部の総務委員会(関東甲信地域支部の運営全般を管轄)より、再発防止対策を指示された。

再発防止対策として、千葉県支部では「活動推進委員会はチームで取り扱うテーマについて、それが技術士会の業務計画で定められた範囲を逸脱しないか判断し活動を停止させる権限を持つこととする。」とし統括本部に報告した。

役員会の前の委員長・チームリーダー会議を「活動推進委員会」との位置付けとした。

●(公社)日本技術士会 千葉県支部「産学官連携チーム」 2019年度 活動報告

〈活動の狙い〉

- 産・学・官との交流・連携を強めて地域社会の発展に貢献する。
- 技術士の知名度向上及び、技術士の活動の場を拡げる。

〈産：連携〉

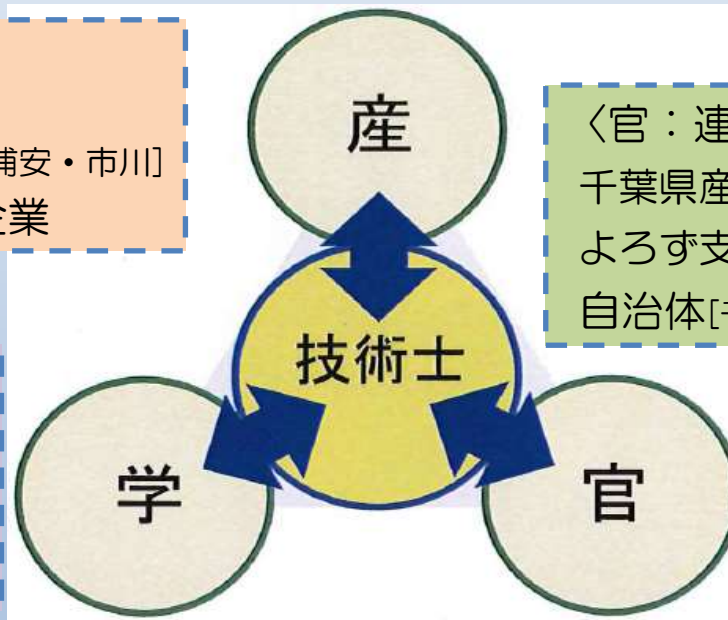
商工会議所
[千葉・船橋・習志野・松戸・浦安・市川]
中小事業者 など、民間企業

〈官：連携〉

千葉県産業振興センター
よろず支援拠点
自治体[千葉県・船橋市・松戸市]など

〈学：連携〉

千葉工業大学
千葉大学
日本大学[理工・生産工学]
など



技術士による、
産学官連携のイメージ

〈2019年度の活動状況〉

◎産学官連携チームの10名のメンバーにて、活動した。

[板谷, 今住, 小倉, 河北, 川口, 長見, 松本, 見並, 宮田, 岡部]

1. 産学官連携チーム会議：

○1回/月（第三土曜日）実施〔9回実施〕[8月,2月,3月は実施せず]

2. 産学官連携チームメンバー紹介（小冊子）を整備した。

3. 産業界へのアプローチ：

○千葉県における、省エネ・CO₂排出削減を促進するため、

- ・省エネ地域プラットフォーム（PF事業：経産省推進）に関与した。
- ・商工会（市川・浦安・松戸）にPR ⇒ ☆1件(松戸)の相談を受け対応した。

○関係団体等との人脈構築・検討テーマの抽出

- ・船橋商工会 賀詞交換会(1/7) ⇒ 検討テーマのヒントが得られた。
- ・千葉県産業人クラブ主催2019産学官シンポジウム(10/30)
⇒千葉大・千葉工大・日大などの先生方、日刊工業新聞などと名刺交換ができた。
- ・(株)英知継承主催技術アドバイザー交流会(10/26:東京)：情報収集等実施。

○展示会・講演会等参加による、テーマ探求等の情報収集

- ・チャレンジカップ千葉(11/20), ・プラントショー(11/21),
- ・ENEX(省エネ)展(1/29) など

4. 大学との連携

○千葉工大と連携によるテーマ検討

- ・仁志教授他(工学部機械工学科)と、ミーティングを実施した(5/20、2020.2/13)
- ・千葉工大技術士会総会に出席(7/6)

○千葉大との連携の相談等

- ・山田副学長に、PF事業の共同推進などを相談した(9/12)
〔千葉大70周年記念シンポジウム打合せ(10/30)〕
- ・大気電場測定用アンテナの改良を中心に活動を実施した。
〔大学院理学研究科(服部研究室)〕。
- ・馬上先生[千葉エコ・エネルギー(株)代表取締役/千葉大講師(公共学)]に、千葉県における再生可能エネルギーの普及について、ヒヤリング(9/24)

○その他：再生可能エネルギー活用の調査として、千葉商大のソーラシェアリングの見学を実施した(11/16)

5. 官へのアプローチによるパイプ作り・情報収集

○環境省主催省CO2説明会(5/9)，経産省エネ合説明会(5/16)

○(NPO)環境カウンセラー千葉県協議会主催講演会(5/19)

○千葉県企業誘致セミナー2019(7/11) ○船橋市商工振興課(6/27)

○(公財)千葉県産業振興センター，千葉県よろず支援拠点にPR(9/13)

☆2件[松戸，香取]の中小事業者の省エネ相談の紹介を頂き対応した。



I. 産業界へのアプローチ

- 各商工会（船橋・松戸・柏・市川・浦安など）との関係構築。
- 千葉県における省エネPF事業（経産省推進）の実績拡大。
- 排熱利用の有効活用化構想検討（大学・官との連携も図る）など

II. 大学との連携

- 千葉工大：定期ミーティングにて、検討テーマの抽出を図る。
- 千葉大：WNI 共同研究のための研究助成申請。
- 日大（生産工学部・理工学部），千葉商大などとの関係強化。

III. 官へのアプローチ

- 千葉県産業振興センター，千葉県よろず産業拠点（継続）
- 松戸市・柏市・船橋市・市川市など（中小企業振興・環境政策）
- 教育委員会〔学習指導要領改正〕（千葉県など：技術士の活用をPR）

企業支援チーム報告

1. 企業支援チームのミッション

培った技術力を活用し中小企業支援活動を通して社会貢献する。

2. ミッション達成の方策

活動を活性化するため、中小企業と交流および対応可能な技術士の確保推進。

(1) CPDイベントを通じた企業との交流強化

(2) 経済環境の変化確認と外部人脈拡大

(3) 千葉県支部内人材登録推進による対応技術陣の強化

他委員会・チームとの連携により、上記課題を達成する。

I 2019年度活動計画

(1) CPDイベントを通じた企業との交流強化

企画委員会との連携により、友好企業*へ招待の案内発信。

(2) 経済環境の変化確認と外部人脈拡大

産学官連携チーム、技術相談チームとの連携により
産業人クラブ、コラボ産学官等の会合に出席し、人脈拡大。

(3) 千葉県支部内人材登録推進による対応技術陣の強化

友好企業：従来から付き合いのあった企業、
産業人クラブ等のアンケート回答企業

Ⅱ 2019年度活動結果

(1) 企業との交流強化

(2) 外部人脈拡大

- ✓ 技術相談チーム経由より技術支援対応。
- ✓ 金融機関より企業支援の依頼対応。

2019年度特記

技術相談チーム経由で技術相談の依頼があったが、「相談」から「支援」には至らなかった。

(3) 人材登録推進による対応技術陣の強化

登録だけでなく、支部の行事にも参加してください。
良く知った方の紹介が、マッチングの確率が高くなります。

企業支援チームの会合は、企画委員会と同じ
毎月第一土曜日に支部事務所にて行っています

Ⅲ 2020年度の取組み

(1) CPDイベントを通じた企業との交流強化

**2018年度の対応を続行すると共に、
外部機関を活用したイベント案内の発信を検討
(産学官連携チーム等と合同)**

(2) 経済環境の変化確認と外部人脈拡大

2019年度の対応を続行

IV お願い事項

○千葉県支部の人材登録をお願いします。

連絡先：企業支援チーム

志澤 (t-shizawa@icntv.ne.jp)

向原 (nozomimilk@eastcom.ne.jp)

中野 (nobo.Nakano@gmail.com)

○千葉県産業振興センターの専門家登録、
ミラサポの専門家登録

○千葉市産業振興財団の専門家登録
をして下さい。

登録したらすぐ依頼があるとは限りませんが・・・

登録支援は、企業支援チームが行います

技術相談チーム報告

技術相談の概要

(1) 技術相談の経緯

旧千葉県技術士会時代に開始した。

平成12年(2000年)：無料技術相談所開設
千葉県産業振興センター 東葛テクノプラザ

平成14年(2002年)：無料技術相談コーナー開設
千葉市産業振興財団

平成24年(2012年) 3月：日本技術士会千葉県支部 設立
新事務所へ移転

(2) 技術相談の実施場所

- ・外部の相談窓口にはチームの相談員が出向いている。
- ・支部事務所では、事務所当番が必要により対応している。

相談窓口	場 所	実施日	メンバー
千葉県産業振興センター 東葛テクノプラザ	柏市 東葛テクノプラザ	金曜日	12名
千葉市産業振興財団	千葉市 ツインビル2号館	木曜日	10名
日本技術士会 千葉県支部	支部事務所	平 日	事務所当番 21名

技術相談の概要

(3) 技術相談現場

東葛テクノプラザ



千葉市産業振興財団 千葉中央ツインビル2号館8階



技術相談チーム 2019年度報告

1. 技術相談の実績

2019年度合計は9件であり、前年より減少した。

<相談件数推移>

相談窓口	2017年度 (H29)	2018年度 (H30)	2019年度 (R1)
千葉県産業振興センター 東葛テクノプラザ	1	3	1
千葉市産業振興財団	6	3	5
千葉県支部事務所	2	5	3
合 計	9	11	9

技術相談チーム 2019年度報告

2. 技術相談の認知度向上

(1) 各企業へメールによる技術相談予定など情報発信

- ・東葛地区及び千葉市内の企業へ発信を継続。

これまでの発信先は、(例)千葉市産業振興財団の登録企業

(2) 金融機関を通じての企業への認知度向上

- ・千葉銀行、京葉銀行、千葉信用金庫等の金融機関へ企業へのPR協力要請を実施。

3. 技術相談の体制整備

- ・チーム連絡会による情報共有化を3回実施した。

技術相談チーム 2020年度計画

6

1. 技術相談の継続

- ・千葉市産業振興財団、東葛テクノプラザ、支部事務所。
- ・協力者を確保しながら世代交代を進める。

2. 技術相談の認知度向上

今後取り組む具体的方策について協議していく。

(1) 各企業への情報発信先の更新

- ・発信先企業は、企業支援チームの接触企業中心にする。

(2) 技術相談の活発化に向けた具体策

- ・対応可能分野一覧表、相談実績リスト、パンフレットの更新など。

3. 技術相談の体制整備

- ・チーム連絡会などによる情報共有化。

以上

防災支援チーム

1. 2020年度活動報告

2019年度（年初計画）

(1) 基本方針：社会活動の一環 “外部へ向けた活動”

(2) 実施活動報告

1) 防災の日協賛「防災講演会」の実施

2) 防災に関する市民活動

①「ふなばし市民活動フェア2020」に参加

②団地自治会、防災活動組織への協力

3) 「千葉県災害対策士業ネットワーク」に参加

4) 外部開催のシンポジウム等への参加

5) その他 本部防災委員長新任による懇談

※以下この計画に対する結果を報告する

(2) 実施活動報告① 防災支援チーム

1) 防災の日協賛「防災講演会」(第5回)

- 9月1日は関東大地震発生の日。これにちなんで9月1日は防災の日とされている。これに協賛し支部のCPD講演として「防災講演会」を開催している。

開催日：2019年9月7日(土) 千葉市市民会館

テーマ：「災害発生時の被災者の健康」

講師：宮崎 美砂子氏(千葉大学副学長・看護学教授)

参加者：約40名

後援：千葉市役所。千葉県弁護士会との共催も検討したが成約に至らず(今後の検討課題)

(2) 実施活動報告②

防災支援チーム

2) 防災に関する市民活動

①ふなばし市民活動フェア参加

- ・開催日：2020年2月1日（土）
- ・会場：船橋市フェイスビル
- ・内容：パネル展示（2019年12月～2020年2月末）
- ・ブース開設、活動紹介：2020年2月1日
- ・来場者：600名（松戸市長など来訪）、メンバー5名
- ・舞台パフォーマンス：災害時の心得行動等について実演
- ☆新京成電鉄のNETの掲示板に掲載、一般の参集を宣伝
- ☆支部で購入した「プロジェクタ」を借用し、エンドレスによる画像上映
- ☆「ボランティアサロンふなばし」より「防災講演」依頼 ✕

(2) 実施活動報告③

防災支援チーム

2) 防災に関する市民活動

②団地自治会、防災活動組織への協力“防災講演”1回実施

- ・開催：2019年5月19日（日）
対象：コスモ市川東ヴァンタージュ（市川市）
- ・演題：「来るべき災害に備える」
- ・講師：秋田義一氏（防災支援チームメンバー）

※これまで2016年以来、13ヶ所のマンション等で開催

③大雨災害の現地踏査

- ・習志野市実籾の住宅地での豪雨による法面土砂災害
- ・メンバーが住民の依頼により技術的解説

(2) 実施活動報告④

防災支援チーム

3) 「千葉県災害対策士業ネットワーク」参画

- 千葉県弁護士会の呼びかけで、（仮称）災害対策士業連絡会
会合2回開催（第3回と第4回）
- 第3回：2019年7月12日（金）
会の正式名称決定「千葉県災害対策士業ネットワーク」
参加者：川畑支部長、秋田幹事、岡部幹事
17士業団体参加
- 第4回：2019年11月19日（金）
弁護士会館 防災研修会
内容：各参加士業の、台風15号、19号および10.25大雨
への対応状況報告など
参加者：秋田幹事、岡部幹事、江藤リーダー

※当ネットワークは年内発足することを宣言。技術士会千葉県
支部は9月支部幹事会で承認、1月本部総務委員会で承認

(2) 実施活動報告⑤

防災支援チーム

4) 外部組織の防災に関する勉強会参加

①「地域防災計画づくりとコミュニティのソーシャル・キャピタル」

開催日：2019年7月27日（土）

会場：日本大学法学部10号館1031教室

主催：地区防災計画学会・日本大学稲葉研究室

外題：新潟・山形をはじめとする過去の災害経験を踏まえて

②「被災者支援制度の全て」

開催日：2019年10月18日（金）18:00-20:00

会場：千葉県弁護士会館 3Fホール

講師：静岡県弁護士会 永野海 弁護士

内容：台風15号被災者の復興・復旧の支援に関する「支援制度の法的解説」

※まず、写真等で証拠保全することが重要。安易に「応急処理制度」に走らない方が得か。9月の防災講演で再紹介予定

(2) 実施活動報告⑥

防災支援チーム

5) 本部防災委員長との懇談

初めての試み：本部防災委員長に野村氏（柏市在住）が新任し
懇談

開催日：2019年12月13日（金）15:00-17:00

会場：船橋市市民活動サポートセンター

参加者：野村委員長、田村前委員長、川畑支部長、防災T9名

内容：新委員長として関東甲信越で面談の一環

- ・ 土業ネットワーク参加について、本部総務委員会への説明
- ・ 支部防災チームの活動状況報告
- ・ メンバー各自の防災に関する意見交換
- ・ 懇親会

2. 2020年度活動計画

防災支援チーム

- × (1) 基本方針：社会活動の一環 **“外部へ向けた活動”**
- × (2) 活動計画
 - × 1) 「**千葉県との防災協定**」協力
 - × ・締結遂行責任態勢の整備（調査）
 - × ・防災に関する勉強会
 - × 2) **防災の日協賛「防災講演会」**の実施
 - × ・千葉市の後援を得る
 - × ・千葉県防災活動とタイアップ+**士業ネットワークと共催**（いまだ未定）
 - × 3) 防災に関する市民活動
 - × ①「**いなばし市民活動フェア2020**」
 - × ②**マンション自治会**、組織への協力
 - × 4) 千葉県災害対策士業ネットワーク
 - × ・防災関連講演会開催（**防災の日共催**）

登録メンバー募集

- 千葉市との防災協定協力会員
- 災害発生時のボランティア
- ① 災害情報の広報等
- ② インフラの被災状況調査
- ③ 災害復旧時の設計照査

科学教育支援チーム(1/8)

チームの役割

技術士の社会経験と専門業務の知見をもって、主に青少年向けに科学技術の啓発や理科教育の支援活動を担い、健全で活力と好奇心に溢れる人々の暮らしや社会の発展に寄与する。

チームの活動目標

課題: 公共教育のコロナ新常态やリモート学習への適合

- (1) 科学理科イベントへの教材出展や学校教育支援の充実
- (2) 高校生と協創する理科教育活動の強化
- (3) 他の公共活動体との連携

科学教育支援チーム(2/8) 2019年度実績

・チームの昨年度活動履歴は次のとおりです。■ は、解説後掲

5月30日	京葉工業高校電波の原理及び無電源ラジオ特別講義
6月8日-9日	青少年のための科学の祭典 第25回 2019千葉大会 出展
6月11日	関東甲信八県支部理科支援情報交換会(初回) 以降2-3ヵ月毎
7月19日	長生高校野外観察用ラズベリーパイ試作技術指導 年度3回
7月22日	八千代松陰中学メロディの小箱工作特別講習
7月26日	長生高校無電源ラジオ制作夏季特別講習
7月28日	第9回千葉サイエンススクールフェスティバル 出展
10月12日-13日	第9回 2019千葉市科学フェスタ メインイベント 台風19号にて直前中止
11月2日	京葉工業高校 無電源ラジオ制作 学園祭出展
11月9日	第7回 Chiba Cross School Science Festival 2019 (指導助言者)
12月14日	第7回 Chiba Cross School Science Forum 2019 (指導助言者)

科学教育支援チーム(3/8)個別学校向け工作実習の定例化

◎ チームは、科学教育支援活動をより深く学校教育の現場に密着すべく、これまで展示イベント向けに整備してきた工作・教材を、原理学習も含め時間をかけ行う、個々の学校向け「特別講習」を2018年度から試行し、継続発展中。

千葉県立長生高校無電源ラジオ制作の夏季特別講習



2019.7.26(土)
13:00-17:15
応募生徒
(高1-3)11名
・電波の原理講義
・半田ごて使用
・屋上で受信確認

2019.7.22(月)
10:00-12:30
科学部生徒
(中1-3)27名
・ボレットボード回路
・工作 & 実演

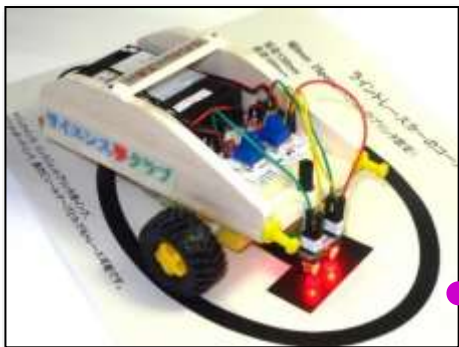


私立八千代松陰中学校メロディー小箱の特別講習

科学教育支援チーム(4/8) 青少年のための科学の祭典

◎ 本件は、年度1回の各地方大会(2019年度60地区)及び全国大会@科学技術館からなる。
・2020第26回千葉大会(2019.6.8-9)@きぼーる でのチーム出展は以下の8作

No.	展示名称
①	無電源ラジオを作ろう！(コラボ:京葉工業高校)
②	CPU殻割体験&都市鉱山クイズ(コラボ:日東造機(株))
③	ライトレースカーで車の自動運転を体験しよう
④	メロディーの小箱を作ろう (コラボ:市立千葉高校)
⑤	アートな野菜を作ろう
⑥	昆虫の親子クイズ
⑦	TVで顔認識～帽子をポン～
⑧	楕円ビリヤード～百発百中～



科学教育支援チーム(5/8) 出展風景

◎青少年のための科学の祭典、千葉市科学フェスタ、SHIRASEなどでの活動の一コマ

ライトレースカー



(市立千葉高校ご協力)

アート野菜



クロマト分析



TV顔認識～帽子をポン～



ラジオでホットスポット探索 (京葉工業高校ご協力)

無電源ラジオ製作



楯円ビリヤード



昆虫の親子当てクイズ



都市鉱山



科学教育支援チーム(6/8) その他の支援活動

◎ Chiba Cross School Science (市立千葉高校主管) の指導助言者の一翼を担う。

- ・千葉市内小・中・高校参加の児童生徒による科学研究の発表会。2019年度は第7回。
前半Festivalはポスター発表会、後半Forumは、前半の部の中・高生の優秀選抜のプレゼン発表会

<https://www.city.chiba.jp/kyoiku/shogaigakushu/shogaigakushu/documents/1110houkoku.pdf>

<https://www.city.chiba.jp/kyoiku/shogaigakushu/shogaigakushu/documents/1215houkoku.pdf>

Festival
11月9日



Forum
12月14日



備考: 写真は市立千葉高校HPの2016年CCSS広報資料 より同校の許可を頂き転載。

- ・当チームは、毎年数名が、指導助言者の一翼として出席している。
2019年度は、Festival 7名及びForum 5名

科学教育支援チーム(7/8) チーム陣容

☆ 以下は、この1年間の活動参加者で、有志の方々を含みます。(順不同)

チームリーダー 西田 宏		シニアリーダー 山下 六男	
飯沼 俊和	泉舘 浩次郎	今住 則之 ※1	
江藤 政継	太田 望斗	大塚 憲司	
川畑 真一	河北 慶介	高野 典子	
中島 正明 ※2	春山 周夏	松井 啓一	
圓山 裕史	三井 宜夫	山村 央	
山室 幸之助 ※2	山本 陽一	吉川 圭子	
和田 昌美	(さらに募集中)		

※ 1: ラジオ製作会主管、全国・ご電波ホットスポット探検隊メンバーでもある。

※ 2: 協賛の“サイエンス夢クラブ(日立技術士会)”メンバーとして参加

科学教育支援チーム(8/8) 2020年度計画

◎ チームの本年度活動は、コロナ新常態に向け、組み直し刷新中

5月20日	関東甲信八県支部理科支援情報交換会 (Web会議主用 以降隔月実施)
6月13日-14日	青少年のための科学の祭典 (第26回 2020千葉大会) コロナ中止
	八千代松陰中学校 技術士特別講義 保留(Web会議検討)
	市立千葉高校 技術士特別講義 保留(Web会議検討)
10月10日-11日	千葉市科学フェスタ (第10回 2020) メインイベント 規模縮小実施
11月	Chiba Cross School Science 2020 第7回前半 Festival 主催元保留
12月	Chiba Cross School Science 2020 第7回後半 Forum 主催元保留
	その他関係先機関とも、新常態交流要領を調整中

- ・チーム活動は、Web会議・クラウド共有フォルダ等にて、リモート業容に転換する。
- ・合わせ、教材リストの情報共有やIT技術勉強会(ラズベリーパイ等)の立上げに関与する。

技術者教育支援チーム 2019活動実績

- 2014年 支部公認の倫理教育研究会Grとして活動を開始
- 2015年度 技術の教育技術を研鑽するチームとして活動
研究会の名称:「技術者倫理教育研究会」
- 2019年度 研究会の名称:「技術者教育研究会」



公益社団法人日本技術士会千葉県支部活動報告

技術者教育支援チーム 活動実績(1/3)

(1)2019年度の技術者教育研究会活動実績(4月～翌年3月)

4月6日	川畑	「警備会社の倫理」
5月18日	岡部	「合格者歓迎会講演」、小波:「技術発想法の演習」
7月6日	—	研究会の進め方の検討
8月10日	志澤	「品質管理」
9月28日	熊田	「技術者倫理の授業」千葉大分
11月2日	三木	「これまでの技術者としてのあゆみ、HPの作り方」
12月7日	小波	「実際に役立つ発想法:演習」
1月18日	小波	「技術文書演習前編」、今後の対応など

※毎回5～12名程度出席して発表と議論。オンラインで参加者増。

発表は、各種講師応募の際の貴重な発表実績として有効。

技術者教育支援チーム 活動実績(2/3)

(2) チーム外での発表

各メンバーが、各所で発表している。

各自の技術発表など。具体的な件名は省略。

チームの執筆はなし。

(3) 9月18日 本部技術士活性化委員会・事例発表会での発表

進藤秀明サブリーダーがチームの活動を発表。

懇親会で好評の感触あり。質問者と関わりができ、連携した。

(4) 事業計画以外の活動

関係各位に迷惑を掛けた。再発防止に努める。

本件について詳細は千葉県支部chiba@engineer.or.jp宛てにお問い合わせください。

技術者教育支援チーム 活動実績(3/3)

(5)大学への講師派遣

① 千葉大学工学部総合工学科機械工学コース 工学倫理

千葉大学工学部共通講座の工学倫理

発端は、千葉県技術士会時代の松井会長(当時)経由の紹介

2018年度まで:小波 2019年度から:熊田

② 日本大学生産工学部機械工学科 工学倫理

松井前支部長の知人である高橋進教授から講師要請。

2018年度:川畑 2019年度から:志澤

③ 日本大学生産工学部機械工学科 経営管理

2018年度まで:進藤 2019年度から:熊田

④ 鹿児島大学の工学倫理 小波が担当

技術者教育支援チーム 2020年度 活動計画

- 講師を担当する力をつけるために研鑽する。
- 大学講師、セミナー講師を目指すチーム員などを募集する。



公益社団法人日本技術士会千葉県支部活動報告

技術者教育支援チーム 活動計画(1/3)

- 講師予定者、講師経験者が、講義内容を研究した成果を発表し、内容と教育の方法をディスカッションしながらブラッシュアップする。
- 大学等での技術者倫理他の教育の場を求める。執筆や対外講演の機会があれば応じる。

(1)教育研究活動

原則月1回の研究活動として技術者倫理教育研究会を継続する。
技術者倫理の他、諸専門、技術者向け講演の内容を含む。

原則として、第一月曜の13:00—15:00。＜役員会などと調整＞

2020年度の「技術者教育研究会」活動予定

4月28日	大柳	「大学生が学ぶべき技術者倫理」オンライン方式
6月6日	板津	「放射能測定の信頼性確保への取り組み」 同上
7月4日	小波	「粉体の分離・偏析の現象と防止法1」 同上
8月1日	未定	

技術者教育支援チーム 活動計画(2/3)

(2) 大学講師等の派遣相談

支部長、産学官連携チーム、企業支援チームなどの応援を得て、大学、高専等に働きかけていく。

① 千葉大学工学部 機械及び共通講座 工学倫理

2019年度から:熊田、2021年度から:大柳推薦中

② 日本大学生産工学部機械工学科 工学倫理

2019年度から:志澤

③ 日本大学生産工学部機械工学科 経営管理

2019年度から:熊田、2021年度から:志澤推薦中

※ 鹿児島大学の工学倫理 引き続き小波が担当

(3) 技術論文・記事の執筆

技術専門誌などに、機会があれば執筆していく。

技術者教育支援チーム 活動計画(3/3)

(4)メンバー募集

- ・若干名の増加は可能で、参加募集中。参加費は無料
- ・参加資格： 日本技術士会会員
- ・大学及び技術セミナー等の講師希望者、講師経験者、その他
- ・余裕があるときは客員参加も可
- ・原則、第一月曜の13:00—15:00、於 県支部事務所orオンライン
- ・講演資料データは、開催後しばらくDropboxに保存

チーム所属メンバーが閲覧可能

(5)チームのメンバー

◎小波盛佳(長)○進藤秀明(副)、志澤達司、河北慶介、熊田成人、山本陽一、川畑真一、和田保久、尾頭 誠、田中和明、岡部政美、和田昌美、浜崎豊、小倉秀文、佐藤泰秀、北村昌文、三木知行、板津英輔、岡部信也、西田宏、松本洋一、大柳規幸

Ⅲ. 会計報告・活動組織図

1. 2019 年度 収支計算書（決算）

2. 2019 年度 監査報告書

3. 2020 年度 予算

4. 2020 年度 活動組織図

(2019年4月1日～2020年3月31日)

(注)予算作成時に、消費税は未想定

↓

(単位:円)



	科 目	予算額	決算額	差異	補足説明
		A	B	A-B	
1	I 事業活動収支の部				
2	1 事業活動収入の部				
3	(3) 事業収入				
4	① 広告料収入				
5	② 参加費収入	720,000	568,000	152,000	CPD参加費
6	③ 各種資料等頒布収入				
7	④ 外部委託管理収入	10,000	18,600	△ 8,600	業務管理費
8	(4) 雑収入				
9	① 受取利息	0	3	△ 3	受取利息
10	③ 雑収入	0	56,322	△ 56,322	交流会残金
11	④ 協賛金収入	120,000	120,000	0	協賛金(5団体、1団体は前年度分)
12	⑤ 寄付金収入	0	0	0	
13	(5) 地域組織活動費収入	1,339,000	1,313,480	25,520	本部より、会費の5%相当分および拠点整備費
14	(6) 地域組織活動補助費収入				
15	① 講演会・見学会開催補助費収入	690,000	690,000	0	CPD開催費用、企画委員会交通費
16	⑥ その他補助費収入	630,000	367,765	262,235	科学展示費用、防災支援関係など
17	事業活動収入計 (A)	3,509,000	3,134,170	374,830	
18	2 事業活動支出の部				
19	(1) 事業費				
20	① 事業促進費				
21	対外活動促進費	700,000	450,928	249,072	科学展示費用など
22	③ 事業広報費				
23	会誌印刷費	30,000	0	30,000	機関誌発行費
24	会誌郵送費				
25	インターネット運用費				
26	その他の広報活動費	30,000	8,115	21,885	
27	④ 普及啓発費				
28	関係団体会費	74,000	74,000	0	千葉商工会議所、東葛テクノ会、産業人クラブ
29	⑥ 研 鑽 費				
30	講演会・見学会開催費	720,000	719,537	463	CPD開催費用
31	⑫ 各種資料等作成費				
32	⑩ 業務推進費				
33	法定福利費				
34	賃 金				
35	会 議 費	50,000	2,230	47,770	会議費
36	旅費交通費	450,000	617,476	△ 167,476	交通費
37	通信運搬費	110,000	87,855	22,145	通信費
38	消 耗 品 費	80,000	112,197	△ 32,197	事務用品費
39	印刷製本費	15,000	4,287	10,713	印刷製本費
40	図 書 費				
41	各種会合費	50,000	60,626	△ 10,626	交流会不足分
42	光熱水料費	30,000	29,508	492	電気代、水道代
43	事務所賃借料	720,000	724,210	△ 4,210	
44	賃 借 料				
45	地域委員会活動費				
46	雑費その他	50,000	34,452	15,548	振込手数料
47	事業活動支出計 (B)	3,109,000	2,925,421	183,579	
48	事業活動収支差額 (A) - (B)	400,000	208,749	191,251	
49					
50	前期繰越収支差額	28,000	261,029	△ 233,029	
51	次期繰越収支差額	428,000	469,778	△ 41,778	

監査報告書

2020年6月24日

公益社団法人 日本技術士会 千葉県支部

支部長 川畑真一様

会計幹事 松井隆 
会計幹事 保坂俊雄 

私たち会計幹事は、2019年4月1日から2020年3月31日までの事業年度執行を監査しました。監査の方法及び結果について、次の通り報告いたします。

1. 監査方法の概要

会計幹事2名は、役員会に出席して支部長、委員長、チームリーダー及び各幹事から報告を受け、必要に応じて説明を求めて事業実施状況の把握に努めました。

さらに会計帳簿等については、2020年6月24日に報告を受け、必要に応じて説明を求めました。

2. 監査結果

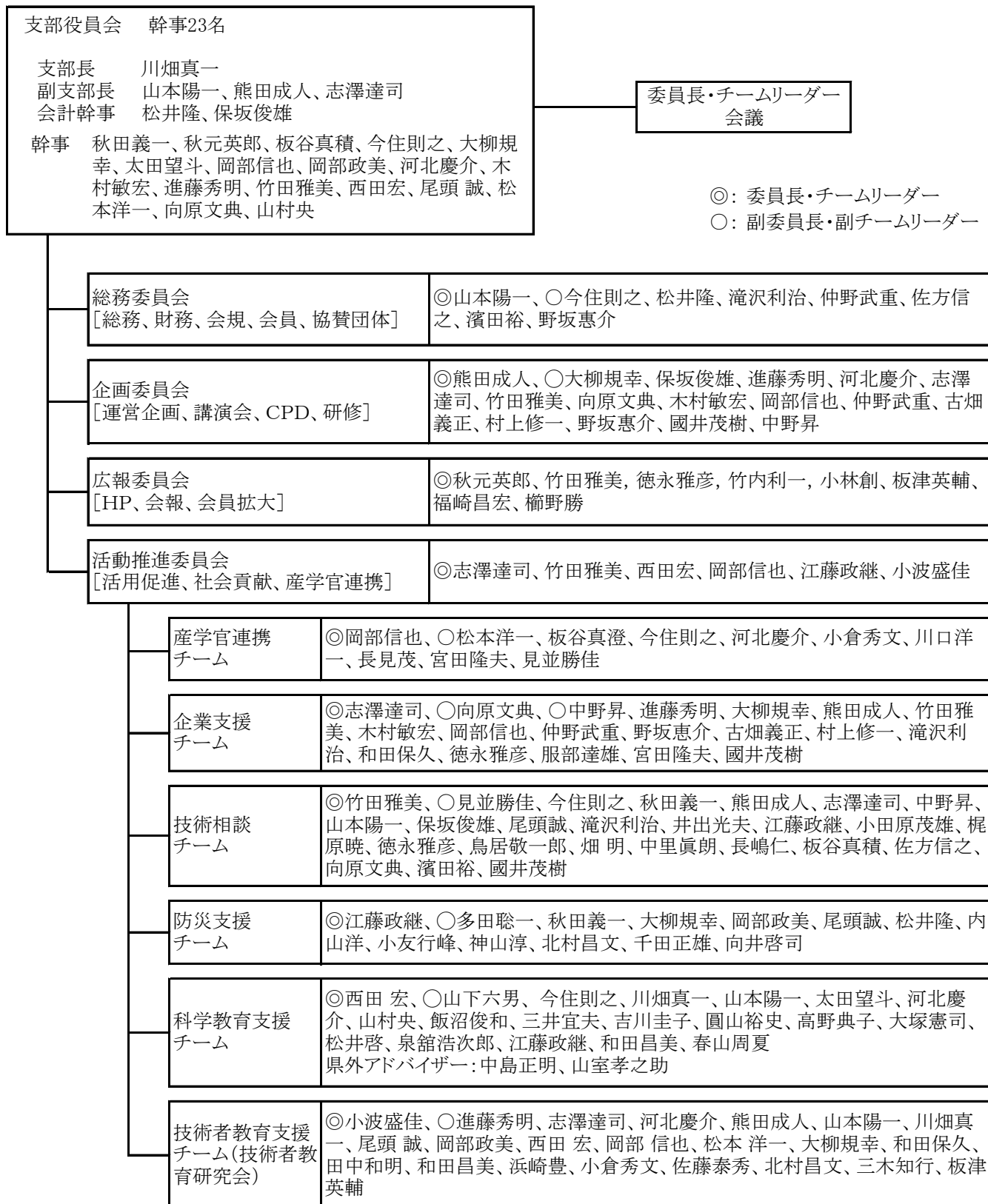
- 1) 事業実施（活動の実施）状況は、2019年度年次大会報告書に示す活動方針に則り、年度計画達成に向けて、着実に実施していると確認しました。
- 2) 会計処理については、貸借対照表、収支計算書、財産目録、現金出納帳、入出金伝票及び預金通帳等を確認し、適切に処理していると判断しました。

以上

(単位:千円)

	科 目	2020年度 予算 (A)	2019年度 予算 (B)	差異 A-B	補足説明
1	I 事業活動収支の部				
2	1 事業活動収入の部				
3	(3) 事業収入	[730]	[730]	[0]	
4	① 広告料収入				
5	② 参加費収入	720	720	0	CPD参加費 (@1500×480人)
6	③ 各種資料等頒布収入				
7	④ 外部依頼管理収入	10	10	0	外部依頼管理手数料
8	(4) 雑収入	[100]	[120]	[△ 20]	
9	① 受取利息収入	0	0	0	受取利息(100円未満)
10	③ 雑 収 入				
11	④ 協賛金収入	100	120	△ 20	協賛金(5団体)
12	⑤ 寄付金収入				
13	(5) 地域組織活動費収入	[1,323]	[1,339]	[△ 16]	本部指定額、拠点整備費40万円含む
14	(6) 地域組織活動補助費収入	[1,040]	[1,320]	[△ 280]	
15	① 講演会・見学会開催補助費収入	690	690	0	CPD開催費補助、本部指定額
16	⑥ その他補助費収入	350	630	△ 280	対外活動促進費補助
17	事業活動収入計 (A)	[3,193]	[3,509]	[△ 316]	
18	2 事業活動支出の部				
19	(1) 事業費	[2,894]	[3,109]	[△ 215]	
20	① 事業促進費	(390)	(700)	(△ 310)	
21	対外活動促進費	390	700	△ 310	科学展示費用、防災支援など
22	③ 事業広報費	(60)	(60)	(0)	
23	会誌印刷費	30	30	0	機関誌発行費
24	会誌郵送料				
25	インターネット運用費				
26	その他の広報活動費	30	30	0	
27	④ 普及啓発費	(74)	(74)	(0)	
28	関係団体会費	74	74	0	千葉産業人クラブなど3団体
29	⑥ 研 鑽 費	(720)	(720)	(0)	
30	講演会・見学会開催費	720	720	0	CPD講演会・見学会費
31	⑫ 各種資料等作成費				
32	⑰ 業務推進費	(1,650)	(1,555)	(95)	
33	法定福利費				
34	賃 金				
35	会 議 費	30	50	△ 20	原則、無料の会議室利用
36	旅費交通費	500	450	50	交通費、役員会分復活
37	通信運搬費	110	110	0	通信費
38	消 耗 品 費	80	80	0	事務用品費、コピー代
39	印刷製本費	40	15	25	印刷製本費、支部パンフレット
40	図 書 費				
41	各種会合費	50	50	0	交流会不足分
42	光熱水料費	30	30	0	電気代、水道代
43	事務所賃借料	750	720	30	消費増税分
44	賃 借 料				
45	地域委員会活動費				
46	雑費その他	60	50	10	振込手数料など
47	事業活動支出計 (B)	[2,894]	[3,109]	[△ 215]	
48	事業活動収支差額 (A) - (B)	[299]	[400]	[△ 101]	
49					
50	前期繰越収支差額	[261]	[28]	[233]	
51	次期繰越収支差額	[560]	[428]	[132]	

2020年度 活動組織図



委員会・チームの構成員には、幹事以外の会員からも委員会委員として広く募り、活動を推進していくことになっており、会員各位の奮っての参画をお願いします。

新チームの設置は技術的要請と会員の参画に応じて柔軟に取り組む。